

# 練兵實備

中

番外書冊

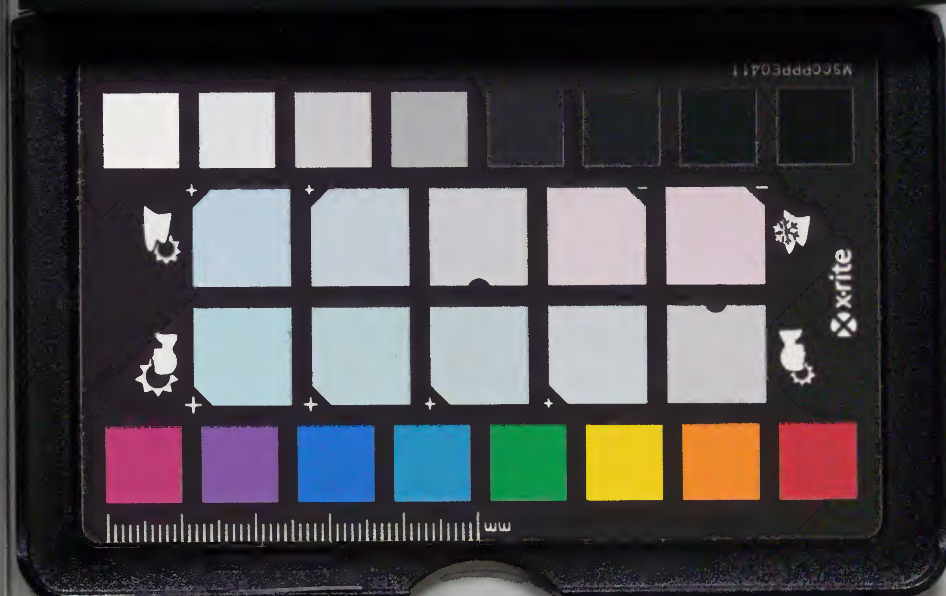
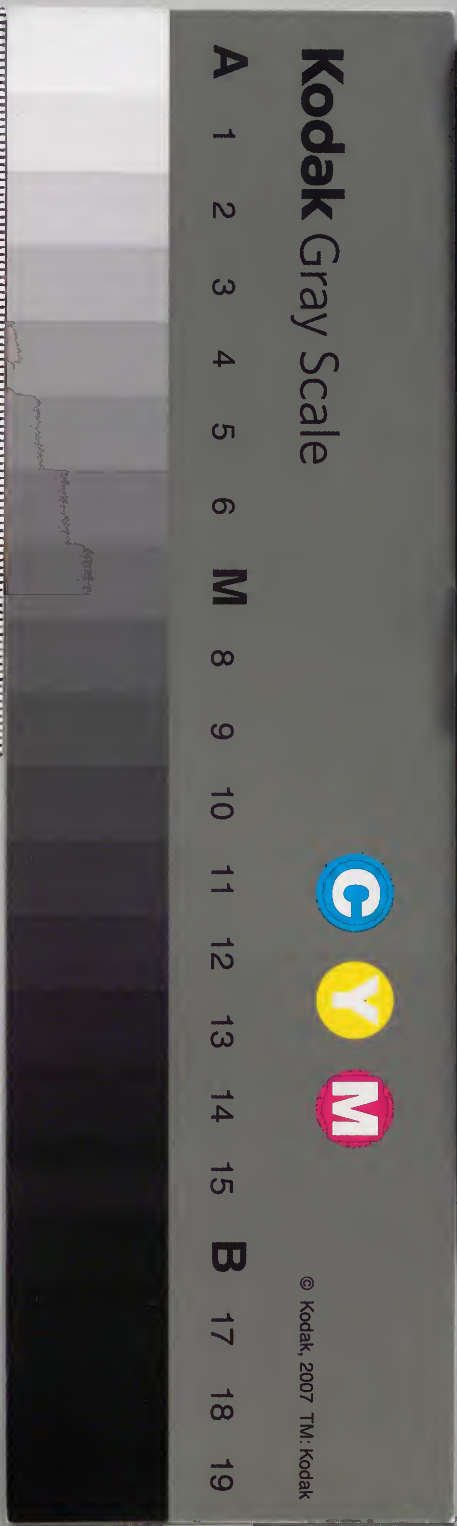
武備兵法

新刊納萃

和書門類	二四八〇一號
函	六七
架	一
冊	三

和書類	二四八〇一號
冊	三
函	一〇
架	一

內閣文庫	番號	和 24801
	冊數	3 ( 2 )
	函號	189 243



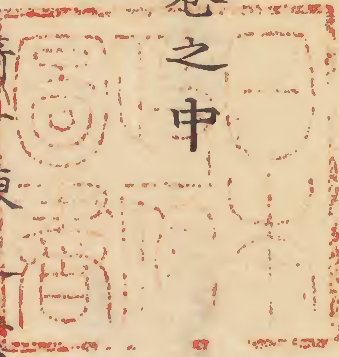


練兵實備卷之中

目次

五十騎一陳之業記

陰陽救應之業記



淺草文庫



練兵實備卷之中

素水山鹿高補 著

五十騎一陳之業記

五十騎ノ士ヲ以テ勝負ノ主トシテ士大將之ヲ  
指揮スルハ雖陳頭第一ニ砲手ノ足輕ヲ二十五人

ノ警固ヲ附ス人ニ隊ヲ二段ニ備次ニ士ヲ二十五

人ツテ隊分テ二段ニ備工次ニ士大將手勢

ヲ引纏ヒテ備テ士大將ノ分限ニ應シ次ニ主將

ノ旗五本ヲ備テ將右必脇ニ長柄一隊ニ十左

ノ脇ニ弓一隊ニ十ヲ置士ハ時勢ニ隨テ馬ヲ用

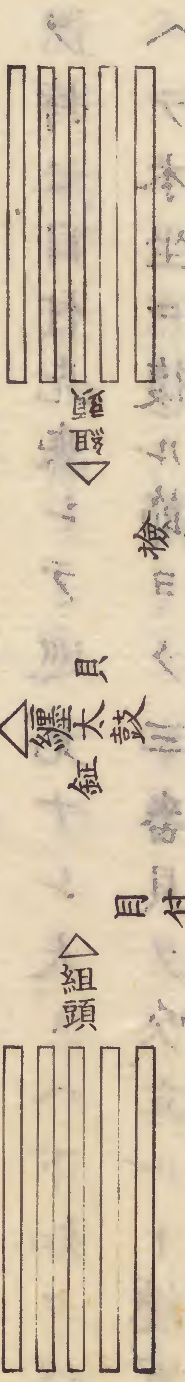
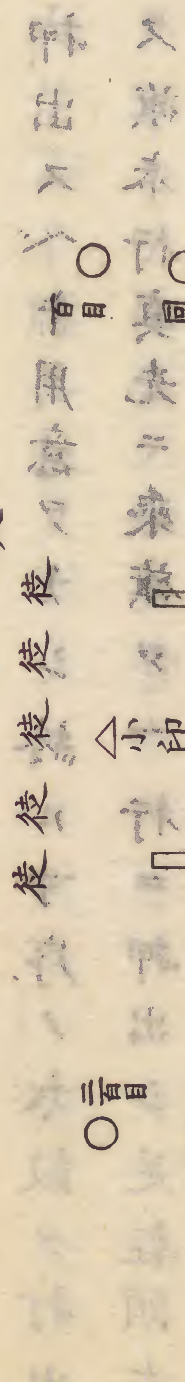


ヒズ從僕一人ハハ士大將ヨリ者頭物奉行  
ス總テ雜人ヲ百目筒三挺ハ百目筒二挺ヲ双輪  
除須ベキナリハ放發シ者五十人ノ内ヨリ士大  
車曰架シテ撰ヒハ挺ハ此陳法ヲ正格トシ變化  
將ノ左右ニ備ヘ置ベシ此陳法ヲ正格トシ變化  
ハ其機節ニコツテ究斗ナカレベキ也右ノ人數  
ヲ卒シテ作法ノ如ク營中ニ休スル寸一番貝ヲ  
吹立ルト腰兵糧ヲシタメ戎衣ヲ鎧ヒ出陳ナ  
スベキノ用意ヲ調フニ番貝ヲ吹立捲リ太鼓ニ  
隨テ旗ヨリ次第正シク一勢ニ營ヲ出テ詰場  
ニ疊ム總軍疊終ル寸士大將ヨリ折敷ノ采幣ヲ

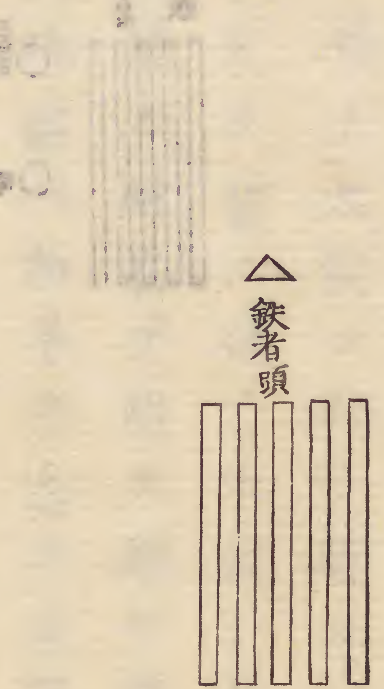
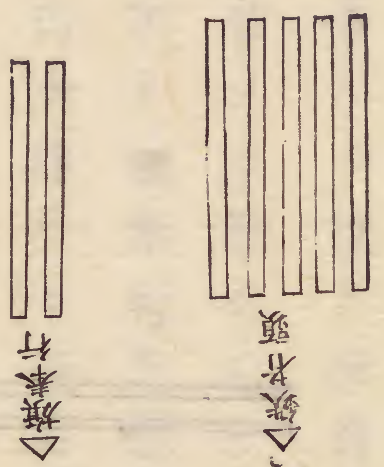
掛頭奉行采幣ヲカケテ地ニ坐ス士大將小馬印  
ヲ持セ目付先乘シテ巡見ナシ夫ニ下知ヲ傳  
ヘテ本坐ニ復ル節ヨク三番貝ヲ吹立ルト總軍  
押出スベキ用意ヲナシ終ル寸序ノ太鼓ヲ打出  
ス旗奉行真先ニ乘旗ヲ一行ニ押出シ足輕頭左  
右一拍子ニ立進ニノ采幣ヲカケテ二行ニ押出  
ス次ニ戰士組頭先トナツテ二行ニ押出ス次ニ  
士大將手勢ヲ左右ニ引卒シテ押出シ終ルト右  
ハ長柄左ハ弓一拍子ニ左右ニ押出シ太鼓ノ拍  
子ニ隨テ足並隊伍ニ正シク戰場ヘ押行



半營又出左右三疊夕ル圖

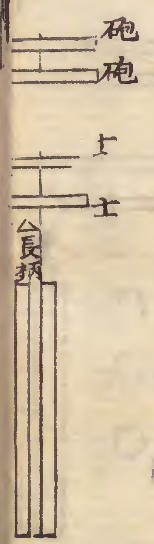


世前奉命...



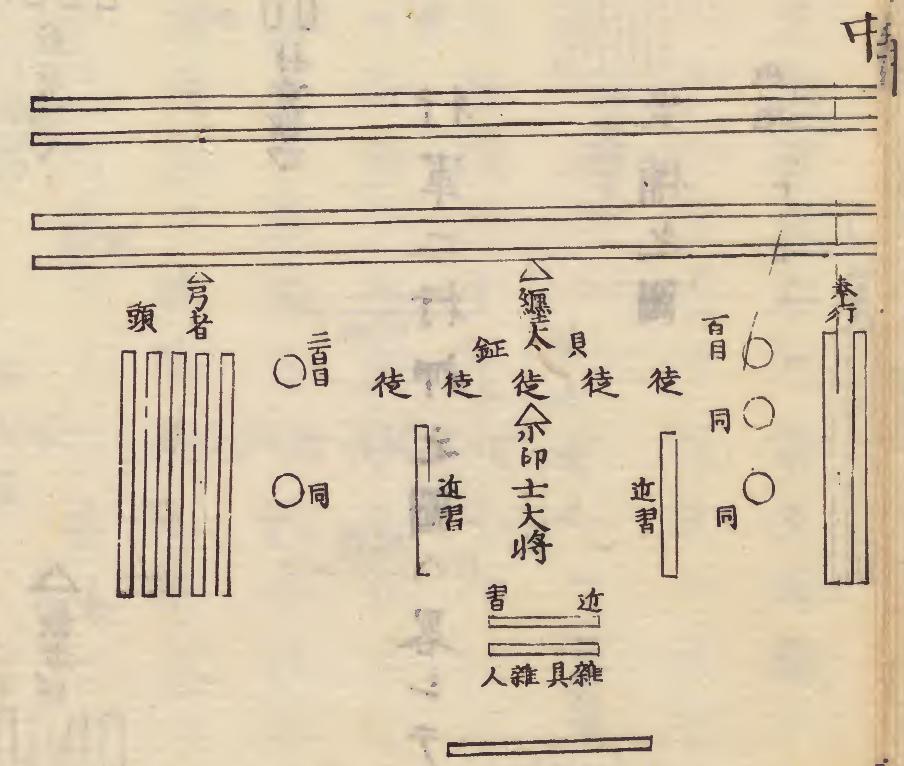
行軍二行押之圖ハ畧シテ記サズ

坐備之圖





既ニ戦地近ク押行寸旗奉行敵間ヨリ地形ヲ見  
 量シテ旗ヲ振圖ヲ合セテ太鼓ヲ打切頭奉行足  
 留ノ采幣ヲカケ總軍足ヲ留ノ破ノ太鼓ヲ打出  
 スト旗奉行見積リ十間ノ胴筋ヲ明テ旗ヲ横一  
 行ニ建ルト左右ノ鉄砲頭一拍子ニ進ノ采幣ヲ  
 カケナカラ小印ヲ先ニ立テ旗ヲ乗越跡ニ總軍  
 入ルベキノ敷ヲ積リ右ハ左ニ左ハ右ヨリ一間  
 下リ右ニ小印ヲ建外ヨリ卷込横一行ニ備フ  
 一人ツノ間タ三  
 尺ト積ルベキナリ  
 次ニ左右ノ組頭一度ニ采幣  
 ヲ掛ナガラ先ニ乘足輕ヨリ六間下リ左ハ其次





二一間引下リテニ段ニ備フ次ニ士大將纏ヲ士  
ヨリ一間下テ建サセ是ヲ規矩ニ馬ヲ進メ徒近  
習手廻前後左右ヲ守ル大筒左右ヨリ進ンテ士  
大將ノ左右ニ備フ長柄奉行弓頭一拍子ニ采幣  
ヲカケ進テ士大將ノ左右ノ脇ニ三間ヲ去テ豎  
ニ置ム此時破ノ太鼓ヲ打止ルト旗ハ胴筋ヲ閉  
鉦三聲ヲ發スレバ頭奉行馬ヨリ下立馬ハ牽付  
置士大將頭奉行一度ニ折敷ノ采幣ヲカケ總軍  
地上ニ安坐シ心身ヲ養フ左右ノ鉄砲頭並平均  
ヲ乗テ出入ヲ正ス折敷ノ儀ニ随意ニ安坐  
体ノ勞ナキ様ニ

十サシ士大將小印ヲ持セ目付先乗シ近習三四  
ムベシシ人扈從シテ巡見ナシテ夫ニ下知ヲ傳ヘ衆氣  
ヲ養フ坐ニ復テ後左ノ砲將左右ノ弓槍ノ將ニ  
乍候ヲ命ズ三將令ヲ奉ジ左ノ砲將前面砲隊ノ  
前ノ中央ニ乗出ス右ヨリ長柄奉行左ヨリ弓頭  
乗出シ各前隊ノ砲手ノ前ニ乗並ヘ三騎一度ニ  
乗出シ砲將ハ正面ヘ一文字ニ乘行長弓ハ左右  
ヘ千鳥ニ乗違ヘ序破急ノ足並正シク敵前近ク  
進ンテ其形勢ヲ慥カニ見定ム是ヲ繫物見ト云  
序破急ニ三段ノ乗  
様千鳥掛ノハ子  
細ニ之ヲ記サズ三騎一度ニ乗歸リ序破急ノ  
足並ニ乗



帰ル左ノ方ヨリ士大將ノ馬前ニ至リ敵ノ形勢  
ヲ告テ各本座ニ復ル士大將諸者頭ヲ招キ軍議  
ヲ談ズ議定テ各本坐ニ復ル寸鉦ニ聲ヲ鳴スヲ  
圖ニ士大將下馬シテ馬ハ牽付置諸者頭ノ馬ヲ  
旗ノ次ニ牽下ケ士卒形儀ヲ正シ皆鉄砲ヲ構ヘ  
單身トナツテ坐ヲ定ム敵烈シク砲ヲ打立競ヒ  
來ルニ我ハ寂トシテ動カズ氣ヲ養テ節ヲ待既  
ニ敵ノ彈丸我ニ徹スルノ期ニ至リ貝一聲ヲ立  
ルト破ノ太鼓ノ拍子ヲ早メテ打出スト前隊ノ  
砲手一度ニ連發ス是ト一拍子ニ旗奉行足早ニ

旗ヲ右ノ方ニ進メテ斜メニ建ル後隊ノ砲手一  
調子ニ前隊ヲ乗越テ連發ナス士ノ隊ハ砲ノ後  
口ヘ進ニテ折敷後隊乗越出ルト一度ニ前隊ハ  
右ノ旗ノ前ニ斜メニ折敷手早ニ玉込ナス後隊  
連發ノ寸貝鉦一拍子ニ吹鳴スニ後隊ノ砲手右  
ヘ斜メニ出タル砲隊ノ次ニ進ニ折敷テ玉込ナ  
ス此貝鉦ヲ圖ニ士大將烈シク下知シ左右ノ大  
砲車ヲ士ノ後隊ノ左右ニ彎月ヲ解タル如ク進  
メ士大將徒手廻ノ兵ヲ卒シテ士ノ隊ノ後口ヘ  
出テ下知ヲ加フ

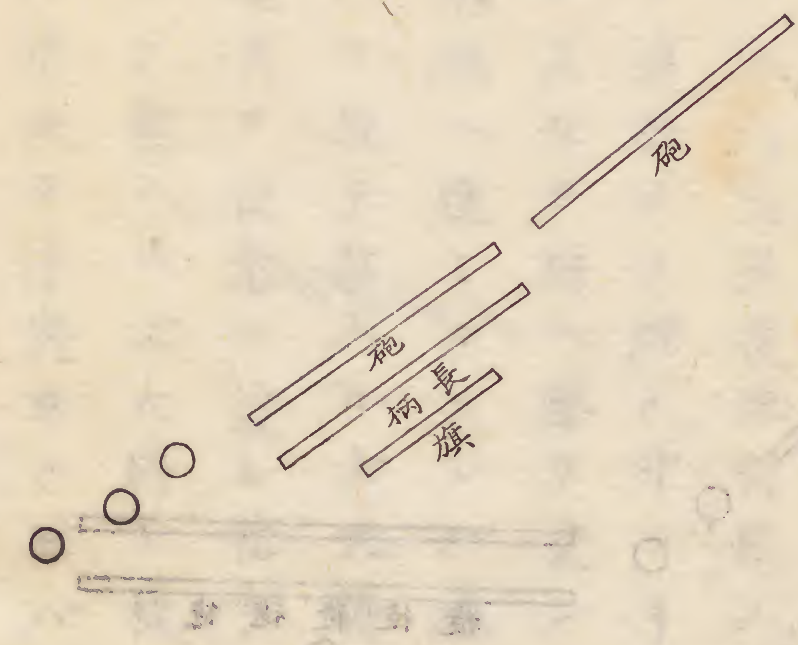






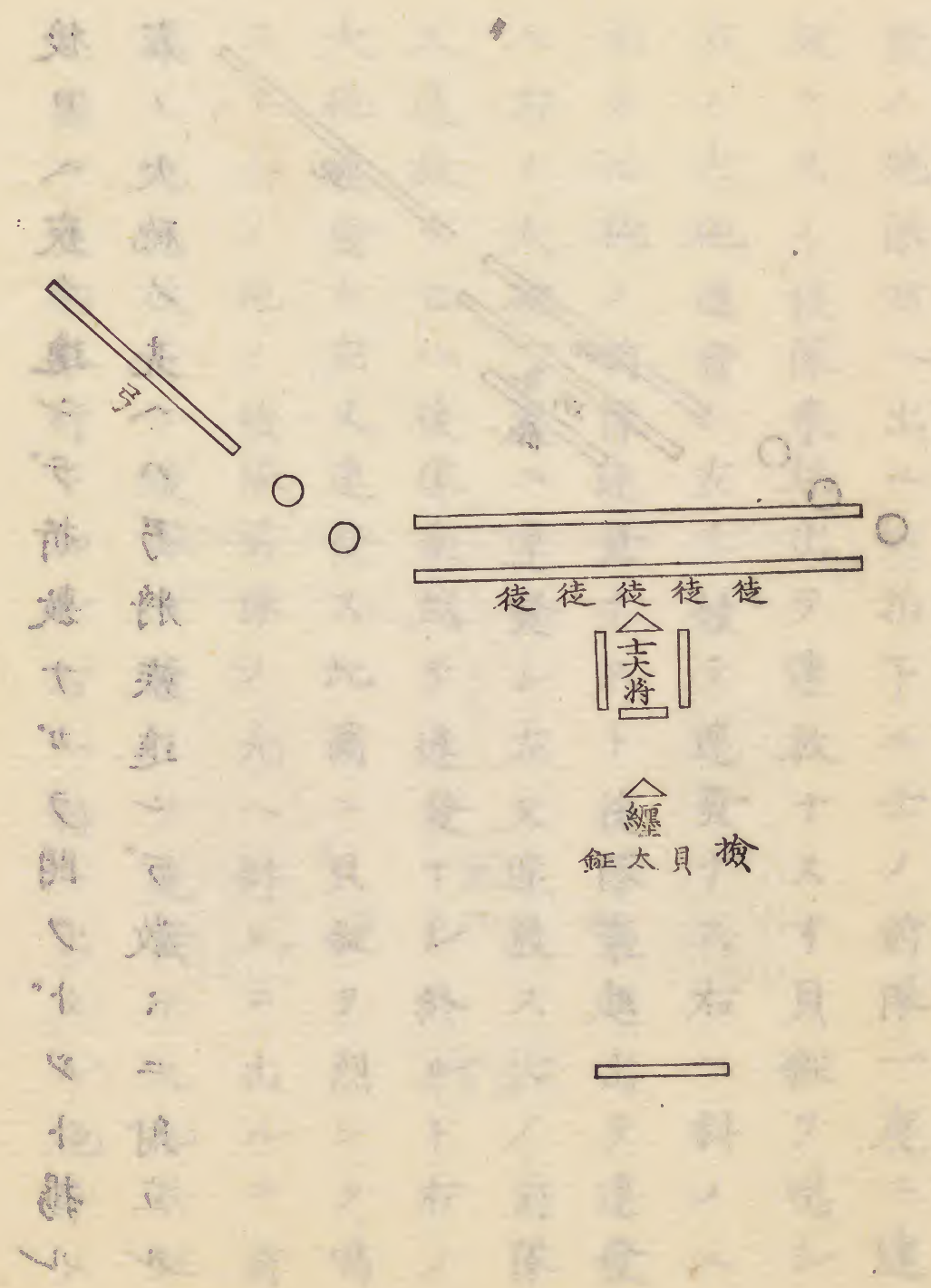
後ノ砲隊右へ出ル一〇拍子ニ士ノ前隊一度ニ連  
 放ナスト後隊乗越出テ連放ナス寸貝鉦ヲ鳴シ  
 右ノ大砲連發シ左モ續テ連發ナス右へ斜メニ  
 出タル砲ノ前隊連發ナスト後隊乗越出テ連發  
 ス右ノ大砲一度ニ連發シ左又連放ス士ノ前隊  
 又連放ナセハ後隊乗越テ連發ナシ終ルト右ノ  
 大砲連發シ左又連發ス此圖ニ貝鉦ヲ烈シク鳴  
 スト右ノ砲ノ後隊前隊ノ先へ斜メニ出ルニ前  
 隊ノ砲連放ナシ後隊モ續ヒテ連發ナス此貝鉦  
 ヲ圖ニ長柄奉行下知シ右へ斜ニ出タル砲手ノ

後口へ疾ク進ンテ折敷ナガラ闊ヲドツト揚ル  
 左ノ大砲ノ先へハ弓將疾進ンテ散ニ射立ル





此時太鼓ノ拍子ヲ早メ貝鉦ヲ一調子ニ烈シク  
 鳴スト右ノ大砲連放シ左モ亦連放ス此中ニ士  
 ハ玉込出來後隊前隊ノ間へ出テ一文字トナツ  
 テ連放ナス煙ノ中ヨリ長柄奉行競ヲ取テ下知  
 シ足並ヲ揃へ聲ヲ發シ地叩キヲトシテ砲手ヲ  
 乗越へ進ミカレバ砲手ハ道具ヲ輪束ニカケ  
 刀ヲ抜テ擊入ル士大將手強ク下知スレバ士ハ  
 道具ヲ從者ニ渡シ槍ヲ執テ突カ、リ或ハ抜刀  
 シテ擊入ス士大將モ徒近習ヲ真圓ニナシテ士  
 ノ中央ヨリ突カ、レハ弓ハ少シ進ミ敵ノ後陣





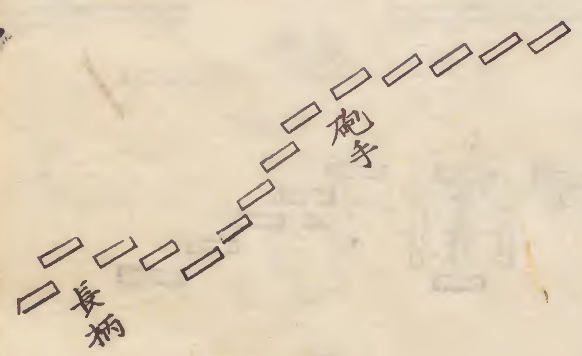




敵剛ナリト雖打碎カレテ色メク處へ一同ニ擊  
 入突立切立勇戦ナセバ一度ニ破レテ敗走ス士  
 大將始頭奉行競ヒテ誘ヒテ下知スレバ味方ハ  
 乘ジテ散ニ追撃ス弓頭ハ五段ニ疊ミ静カニ  
 追討ノ跡ヲ詰テ進ミ場ヲ量リ斜メニ折シカセ  
 テ後途ヲ守ル左右ノ大筒モ程ヨク進ニテ左右  
 ニ備ヘテ後途ヲ守ル旗奉行ハ場ヲ積リテ旗ヲ  
 建レハ檢目ハ纏胴勢ヲ進テ備ヲ定メ太鼓貝ノ

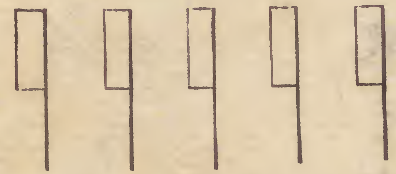
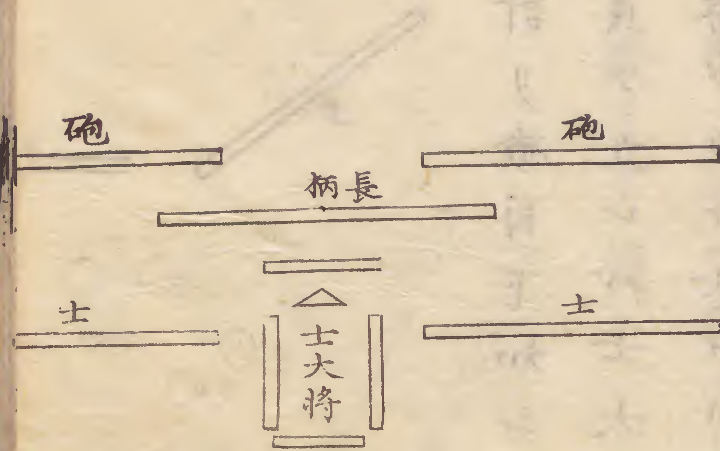
音ヲ止メ鉦ヲ無數ニ打鳴ラセバ士大將始メ頭  
 奉行下知シテ追撃ヲ止メ一町程揚來テ敵ニ向  
 ヒ隊伍ヲ正シテ折シキ勞ヲ休シ後ヲ持

追撃之圖



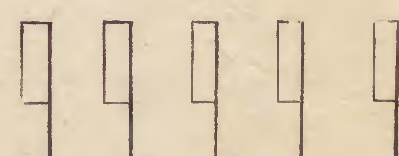


追留之圖



目 纏 檢  
鉦 鼓 貝

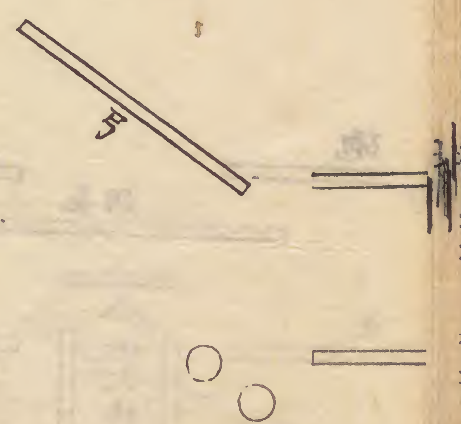
人 雜 具 雜



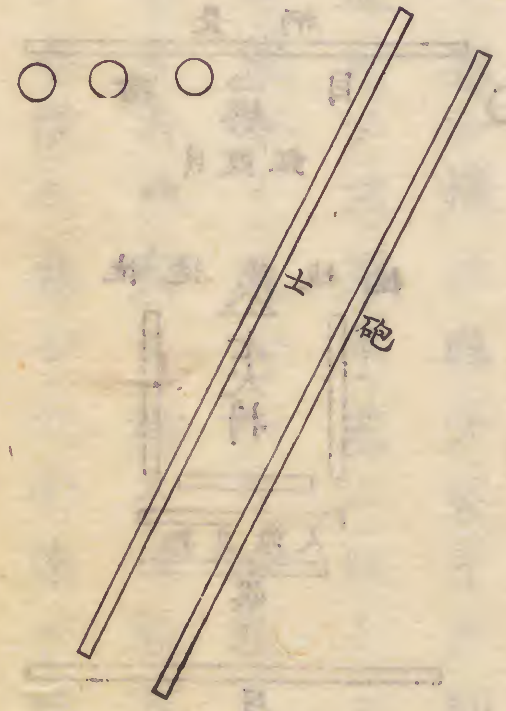
目 纏 檢  
鉦 鼓 貝



節ヲ計リ檢目下知シ靜カニ破ノ太鼓ヲ打出シ  
 揚ノ貝ヲ立レバ士大將始メ頭奉行立ノ采幣揚  
 ノ采幣ヲカケ士ヨリ長柄士大將砲手ト揚來レ  
 ハ弓ハ五段ニ疊ミテ殿トナリ大砲モ弓隊ノ左  
 右トナツテ足並正ク引揚來リ胴筋ヨリ入テ砲  
 士ハ左右へ彎月ノ如ク備へ長柄ハ前へ弓ハ後

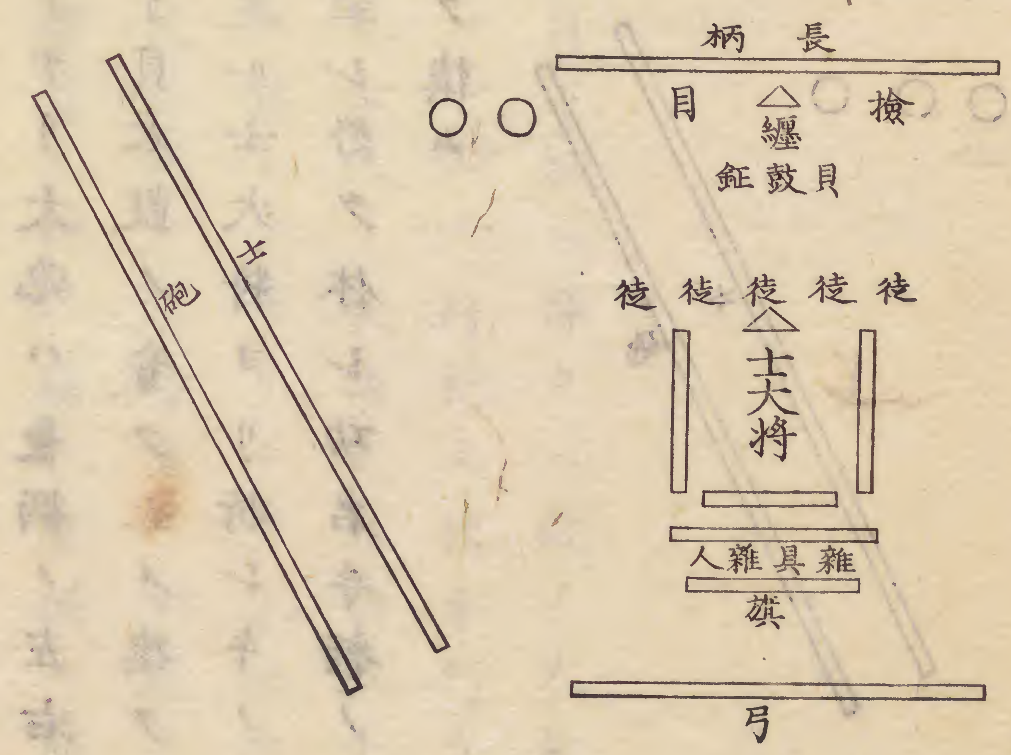


ロニ一文字トナリ大砲ハ長柄ノ左右ニ備フ總  
 軍備へ終ル寸貝太鼓ノ音ヲ止メ旗ヲ士大將ノ  
 後ロニ揚テ建ル士大將ヨリ折シキノ采幣ヲカ  
 ケ總軍地ニ坐シ勞ヲ休シ功名手柄ノ次第ヲ正  
 シ全ク終リヲ慎ム





以て必陰陽救應之業記  
 近世兵家ノ制必ス五十騎兩陳ヲ以テ奇正救應  
 ノ業ヲ大サシム是ヲ一ニ陰陽ト号ス中古ニ用  
 ヒタル一ニ非ズ小雖衆ヲ御スルノ定理ニシ  
 テ必ク如此ナズニ其利多シ夫兵卒數萬ヲ統ベ  
 敵ニ向テ變ニ應ジ機ニ臨テ宜キヲ制スルハ下  
 知號令ノ能通ジテ三軍手足ノ如クナラシムル  
 ニ力リ能下知號令ノ通ズルハ分數シテ又之ヲ  
 結聚スルニ力リ去テ兵ヲ御スル數百小隊ニ分  
 數ナシ其將ノ分限ニ應ジ一小陳ニ結聚シ數小





陳前後左右ニ布列シ終ニ五行八陳ノ大陣ヲナ  
シ始テ敵ト會戦シ應變其節ニ當ルニ至ル凡ソ  
一陳ノ士卒衆ナルトハ將ハ下知通ジ難ク合圖  
號令整ヒ難シ然レモ寡ニ過ルハ又剛戦ナシ  
カタシ故ニ士五十人輕卒七十五人長柄二十人  
ヲ一陳トシ司命ノ將ニ附屬ス其輕卒モ亦三隊  
トナシ十隊毎ニ一小將ヲ任シ士モ亦二隊トナ  
ス然レモ下知合圖ノ通シ易ク紛レナカラシメンガ  
爲ナリ此一陳ニテハ應變救應モ全カラザルヲ  
以テ必ズ兩陳ヲ結組シテ一二陰陽ト號シテ奇

正ノ變化救應ノ運轉ヲ全カラシム是ヲ別手一  
手ニ別手ト云又大手ノ小手ニノ大手ト號  
シ衆ヲ統ベ兵ヲ御スルノ要トナス是和漢古今  
不易ノ法ニシテ必ズ如此ナラザレバ衆ヲ御ス  
ルヲアタハザレバ也然レモ皇國中古ノ戦争  
ニ此兵制アルニハナク專ラ格闘ナスト雖戰鬥  
ノ餘ヲ以テ見ル寸ハ自然ト救應奇正ノ形勢顯  
然タリ後世陳法ノ正格ヲ設クルニ至テハ衆ヲ  
御スルノ定理ヲ以テ教法ヲ立ルガ故ニ八陳九  
段ノ大成ノ陳ハ前後左右ノ八陳盡ク陰陽二陳



ラ組合スルヲ以テ八陳ノ名アリト雖其實ハ十  
六陳ヲ布列ナス今此業記ヲ述ル一陳ニ始テ兩  
陳救應ノ業ヲ記シ學者參考ノ一助トナス

○一番貝ヲ立テ兩陳一度ニ兵糧ヲ食シ戎衣ヲ  
着シテ其期ヲ待ニ番貝ヲ立捲リ太鼓ニ隨テ兩  
陳正旗ヨリ次第ノ如ク詰場ニ至リ左右ニ疊ム  
兩士大將中央ニ相並テ馬ヲ建先陳右ニ陳左ニ  
足輕長柄士ト相對シテ疊ム疊ミ終リテ兩士大  
將ヨリ折敷ノ采幣ヲカケ總軍地ニ坐ス兩士大  
將小印ヲ持セ目付先乘シテ巡見ナシ夫々ニ下

知ヲ傳フ三番貝ヲ立何レモ押出スヘキ程ヲナ  
ス節ヨク先陳序ノ太鼓ヲ打出シ旗奉行先ニ乘  
旗ヲ一行ニ押出ス次ニ砲手足輕大將左右一拍  
子ニ采幣ヲカケ二行ニ押次ニ戰士二行ニ押次  
ニ士大將手勢ヲ別卒シテ押出シ次ニ右長柄奉  
行左弓頭采幣ヲ合セ二行ニ押出シ終ル寸ニ陳  
序ノ太鼓ヲ打出シ旗ヨリ次第正ク二行ニ押出  
シ兩陳太鼓ノ拍子ニ隨ヒ足並隊伍ヲ正シク靜  
カニ戰場ヘ押行也先陳ステニ敵近ク至ル寸旗  
奉行地利ヲ見量シ旗ヲフル圖ヲ合セ太鼓ヲ打

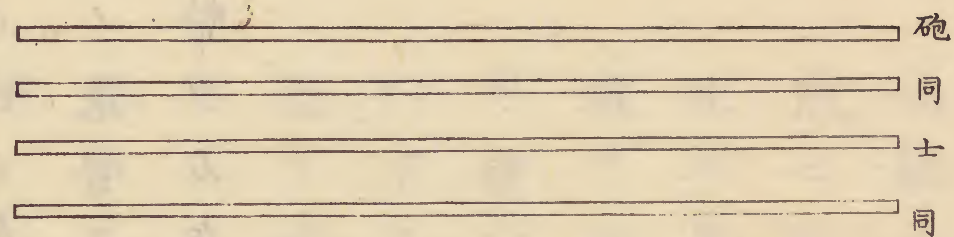
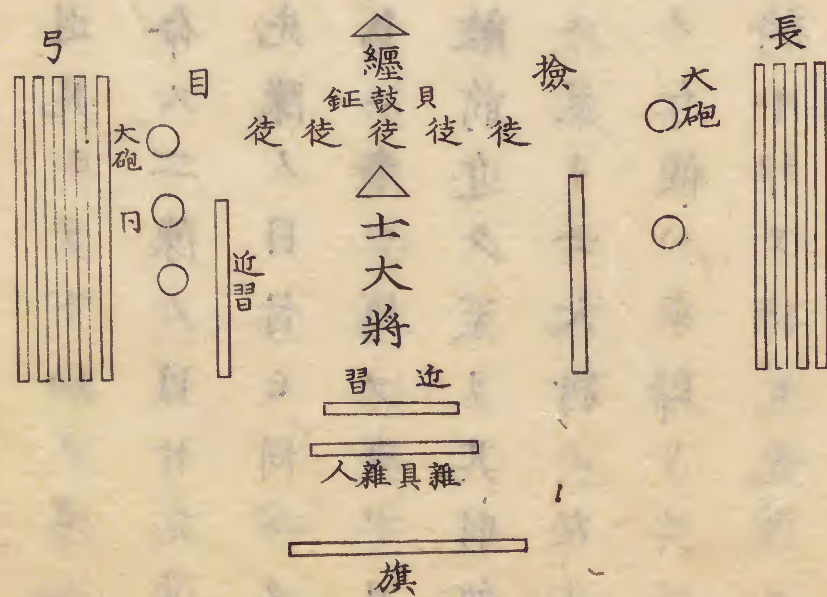
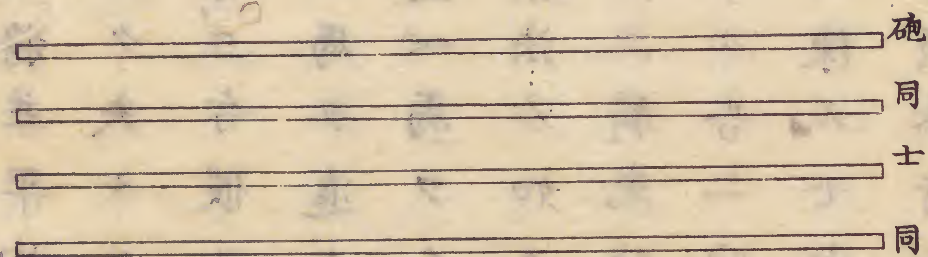


切鉦二聲ヲ鳴ス頭奉行采幣ヲカケ足ヲ止メニ  
陳モ同ジク旗ヲ振太鼓ヲ打切鉦ヲ鳴シテ足ヲ  
止ム先陳破ノ太鼓ヲ打出セバ二陳モ一拍子ニ  
破ヲ打出ス先陣ノ旗奉行十間ノ胴筋ヲ明テ旗  
ヲ横一行ニ建ルト二陳モ左ノ方エ十間バカリ  
引下リ同ジク旗ヲ立ル兩陳ノ砲隊左右一度ニ  
旗ヲ乗越總軍入ベキノ敷ヲ積リ二段ニ備フ續  
テ士進ンテ砲手ノ次ニ二段ニ備ヘ士大將纏ヲ  
程ヨク進メ建テ坐ヲ定メ長柄弓ハ左右ヨリ進  
ンテ將ノ脇へ豎ニ疊ンテ備へ終ル寸太鼓ヲ打

止鉦二聲ヲ鳴シ旗ハ胴筋ヲ閉ル兩士大將折敷  
ノ采幣ヲカケ兩陳ノ頭奉行一調子ニ折敷ノ采  
幣ヲカケ一同ニ地ニ坐シテ勞ヲ養フ



東... 一... 二... 三... 四... 五... 六... 七... 八... 九... 十... 十一... 十二... 十三... 十四... 十五... 十六... 十七... 十八... 十九... 二十... 二十一... 二十二... 二十三... 二十四... 二十五... 二十六... 二十七... 二十八... 二十九... 三十... 三十一... 三十二... 三十三... 三十四... 三十五... 三十六... 三十七... 三十八... 三十九... 四十... 四十一... 四十二... 四十三... 四十四... 四十五... 四十六... 四十七... 四十八... 四十九... 五十... 五十一... 五十二... 五十三... 五十四... 五十五... 五十六... 五十七... 五十八... 五十九... 六十... 六十一... 六十二... 六十三... 六十四... 六十五... 六十六... 六十七... 六十八... 六十九... 七十... 七十一... 七十二... 七十三... 七十四... 七十五... 七十六... 七十七... 七十八... 七十九... 八十... 八十一... 八十二... 八十三... 八十四... 八十五... 八十六... 八十七... 八十八... 八十九... 九十... 九十一... 九十二... 九十三... 九十四... 九十五... 九十六... 九十七... 九十八... 九十九... 一百...



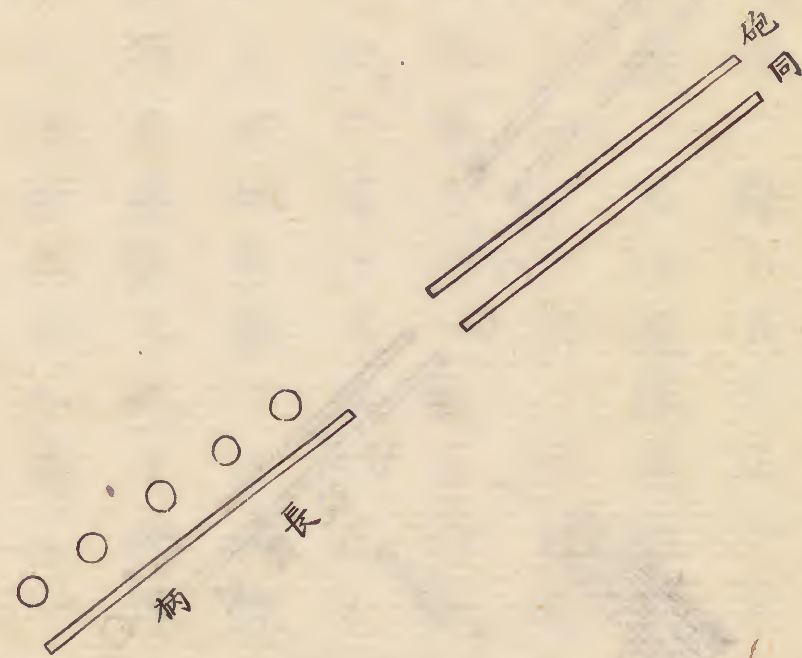


兩陳砲手前隊ノ將並平均ヲ乗テ出入ヲ正シ兩  
士大將詰場ノ如ク夫々ニ巡見シテ下知ヲ傳へ  
テ坐ニ復リ目付ニ存候ヲ命スニ陳ノ目付先陳  
砲手先隊ノ前ニ馬ヲ進ム先陳ノ目付モ同ジク  
乗出シ二騎乗並べ馬ヲ千鳥ニ乗テ場ヲ廣ク見  
序破急ノ足並作法ノ如ク敵前近ク至リ其形勢  
ヲ慥カニ見積リ二騎先陳ニ至リ士大將ノ左ノ  
方ヨリ敵ノ容子ヲ告ニ陳ノ存候ハ乘歸リ其將  
へ形勢ヲ告ルニ陳ノ士大將小印ヲ持セ先陳へ  
來リ軍議ヲ談ジ頭奉行へ夫々令ヲ傳へテ二陳

ニ歸リ金鼓ノ音ヲ過メ寂トシテ銳氣ヲ養ヒ靜  
カニ敵ノ來ルヲ待既ニ圖ニ中ツテ二陳破ノ太  
鼓ヲ打出シ足並隊伍ヲ亂サズ靜カニ進ニ行先  
陣ノ左ノ先エ斜メニ出テ太鼓ヲ打過メ鉦ヲ鳴  
シテ折敷ク先陳ハ破ノ太鼓ヲ打出シ右ノ方エ  
大砲五車ヲ斜メニ進ルニ差續長柄奉行采幣ヲ  
カケ足並正シク大砲ノ次へ斜メニ進ニテ折敷  
ク寸敵乘シテ進來ルノ圖ヲハカリ兩陳ヨリ貝  
ヲ吹立太鼓ノ拍子ヲ早メテ打出ストニ陳ノ大  
砲士ノ左右へ張出ス節ヨク先陳貝ヲ過メ鉦ヲ



鳴ラセバ二陳モ同ク貝ヲ吹過鉦ヲ鳴ス寸兩陳  
 前隊ノ砲手一度ニ連發ナスト後隊乗越出テ連  
 發ナス先陳ノ大砲一度ニ打放セバ二陳ノ砲モ  
 同ジク連發ナス此一拍子ニ兩陳砲ノ前隊左右  
 ノ先ヘ斜メニ出テ折敷手早ニ玉込ナス後隊モ  
 打放スト其儘同ク前隊ノ次へ出テ折敷テ玉込  
 ナス兩士大將モ砲ヲ發スル比ヨリ徒士手廻ヲ  
 卒シテ士隊ノ中へ進ミ烈シク下知ナス砲手ノ  
 揚ルト一度ニ兩陳士ノ前隊連發ナセバ後隊乗  
 越出テ連發ス



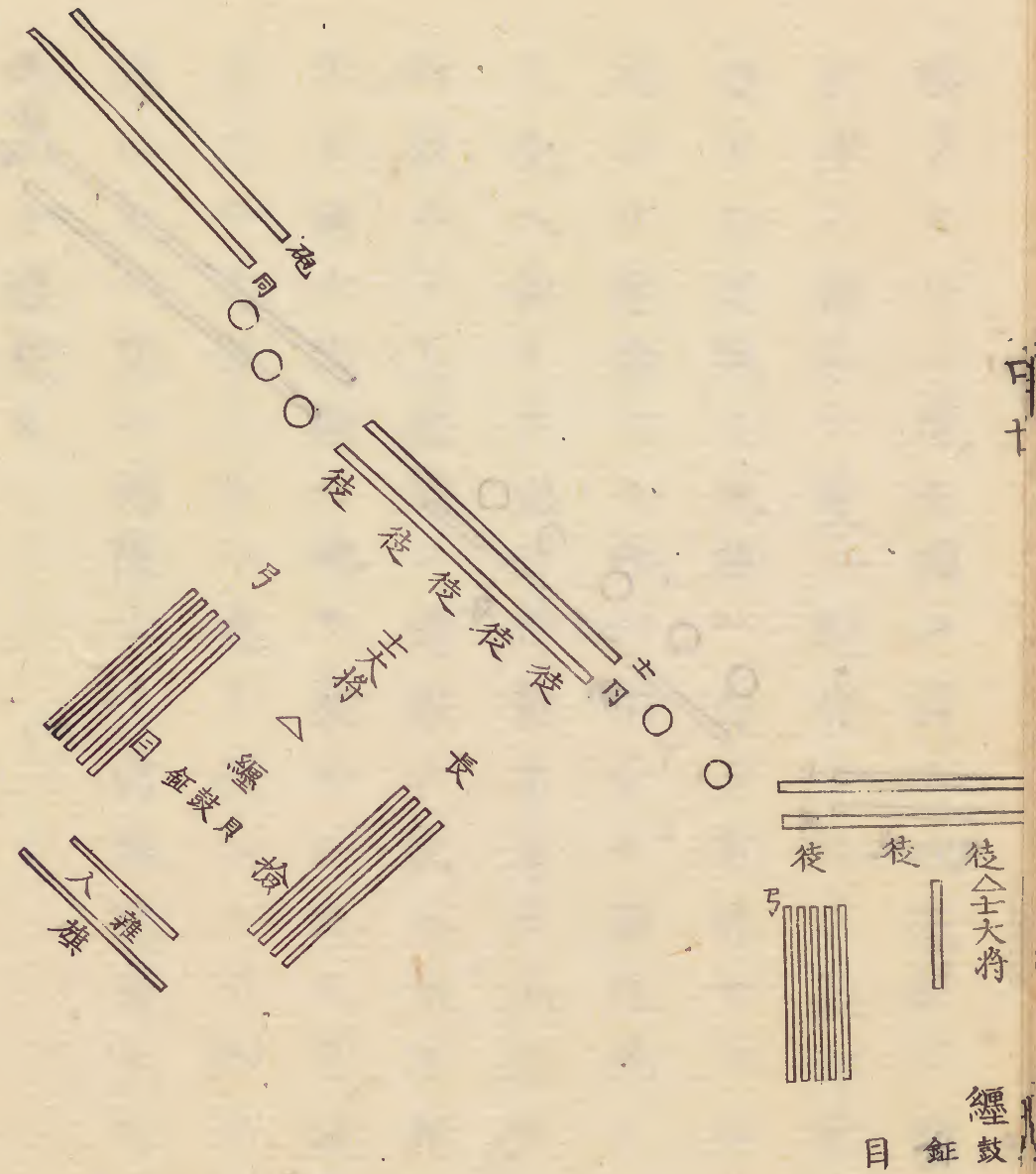
士同  
 徒 徒

貝 檢

雜  
 眞

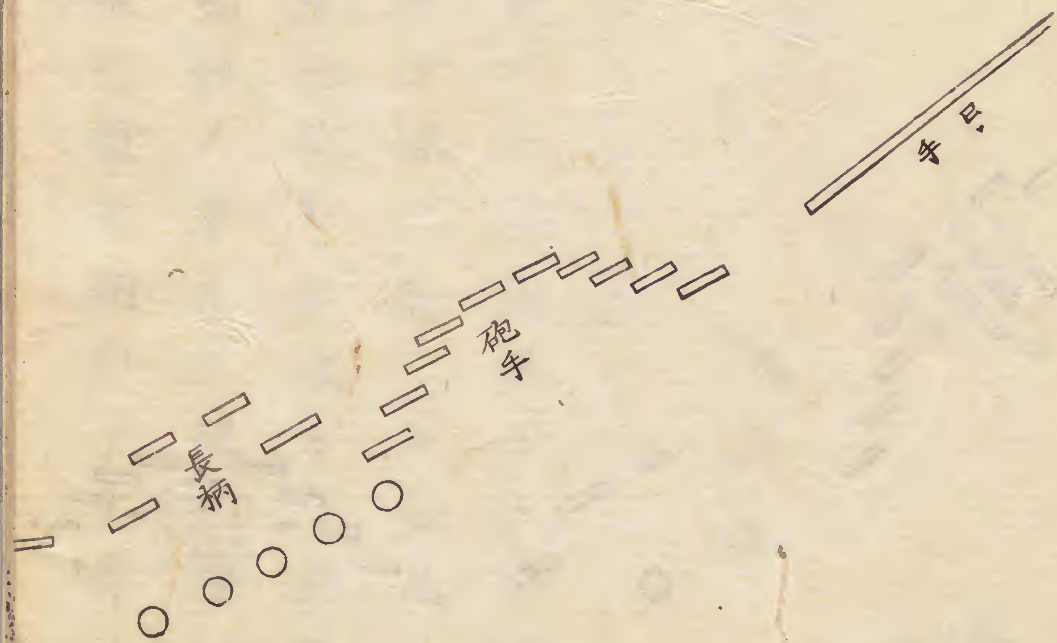


兩陳一聲ニ貝ヲ立ルト左右へ出タル砲ノ前隊  
 連發ナセバ後隊乗越テ連放ナス先陳ノ大砲連  
 發ナセバ二陳ノ砲モ連發ナス此圖ニ先陳ノ弓  
 隊砲隊ノ次へ出テ折敷ハ二陳ノ長柄右ノ大砲  
 ノ次へ進ミ弓隊ハ左ノ大砲ノ次へ進ニテ折敷  
 左ノ大砲打放スト兩陳士ノ前隊連發ナシ後隊  
 乗越テ連放ス此寸兩陳ノ二段ニ張出シタル砲  
 手ノ後隊各先へ進ミ一文字トナツテ四隊一調  
 子ニ連發ナスト先陳ノ弓手砲ヲ乗越出テ散、  
 ニ射立ル寸二陣ノ弓手大砲ノ前へ出テ散、ニ



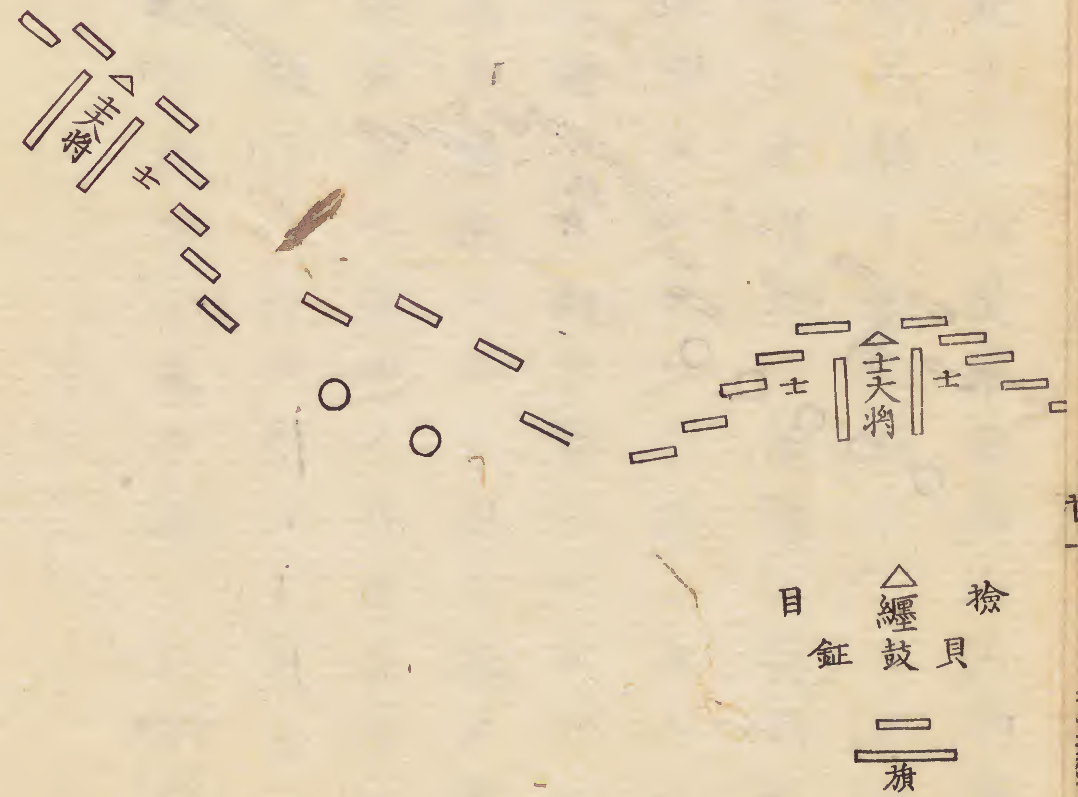
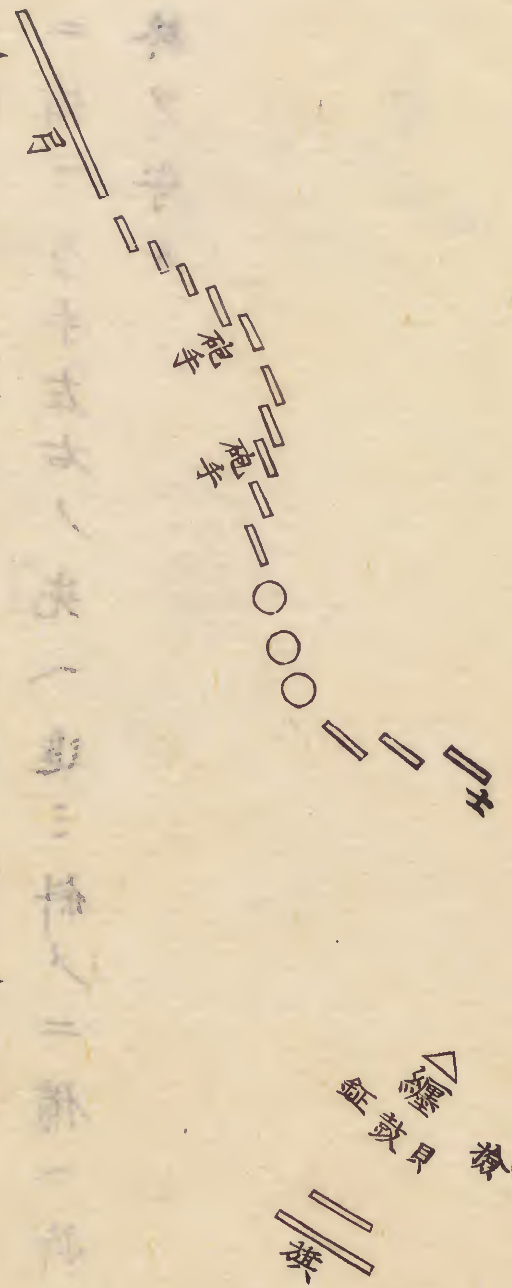


射立ル士ノ前隊連發ナセバ後隊乘越出テ連發  
 ナス此塩合ニ敵間大ニ詰リ玉込モナシカヌレ  
 バ貝鉦ヲ一拍子ニ烈シク鳴スニ兩陳ノ長柄大  
 砲ヲ乘越鬪ヲ發シ地叩キヲナシテ進ミカミル  
 ニ士砲ヲ從者ニ渡シ槍刀ヲ執テ撃入ナセバ兩  
 陳四隊ノ砲手各道具ヲ輪束ニカケ刀ヲ振テ撃  
 入ナシ銳氣盛シニ乘スルヲ兩陳ノ弓手左右へ  
 程ヨク進ミ矢繼早ニ敵ノ後陳ヲ烈シク射立レ  
 ハ兩士大將何レモ槍ヲ執テ士卒ヲ勵マシ剛戰  
 ス



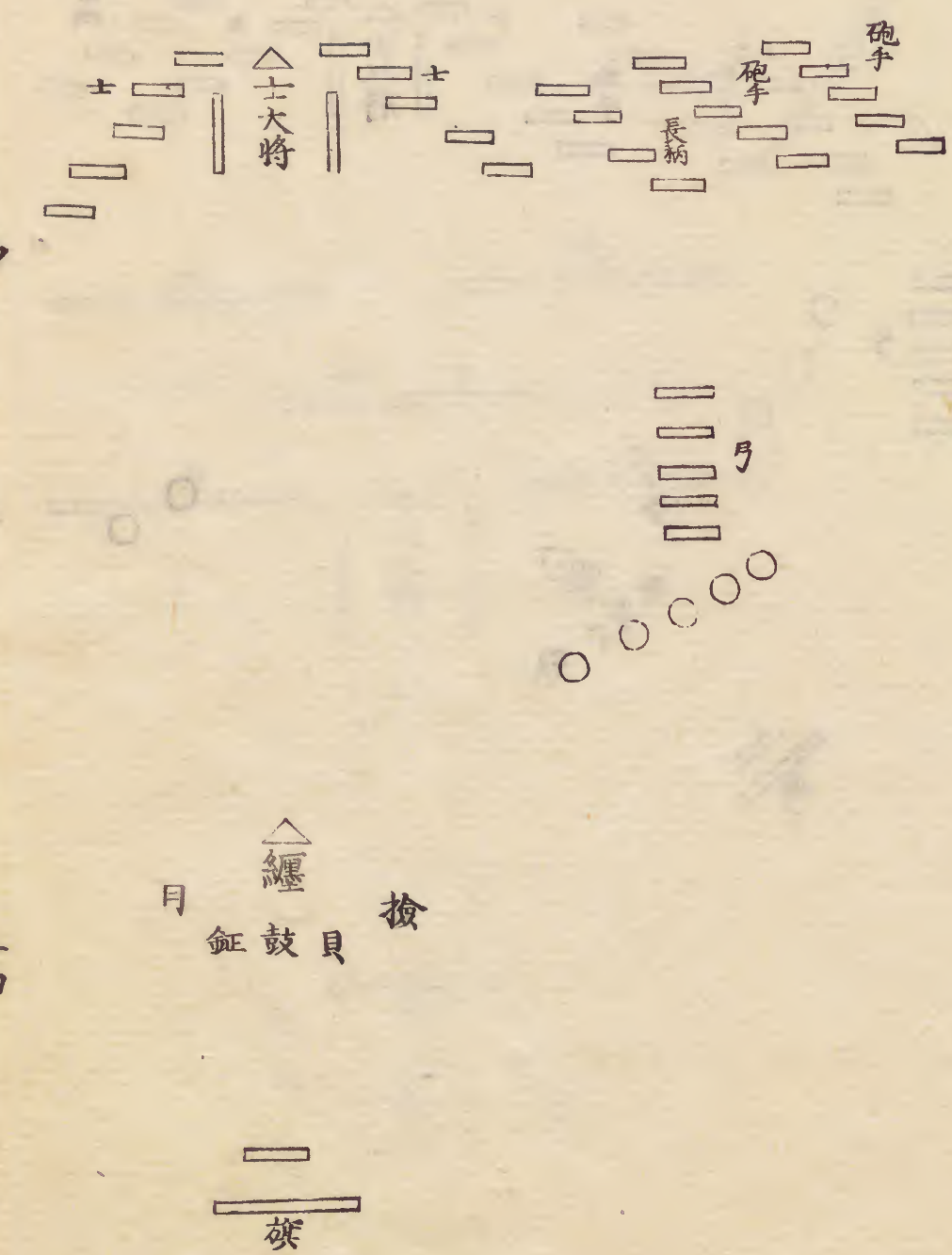


敵剛ナリト雖散ニ浮立ヲ士大將始メ頭奉行  
 自ラ槍ヲ合ヒテ士卒ヲ勵マシ競カレハ敵ハ  
 亂レテ右往左往ニ敗軍ス味方ハ益乘シ足並ヲ  
 亂シテ追撃ス兩陳ノ弓手五段ニ疊ミ跡ヲ詰テ  
 進ム兩陳ノ旗奉行檢目相計リテ節ヨク旗胴勢

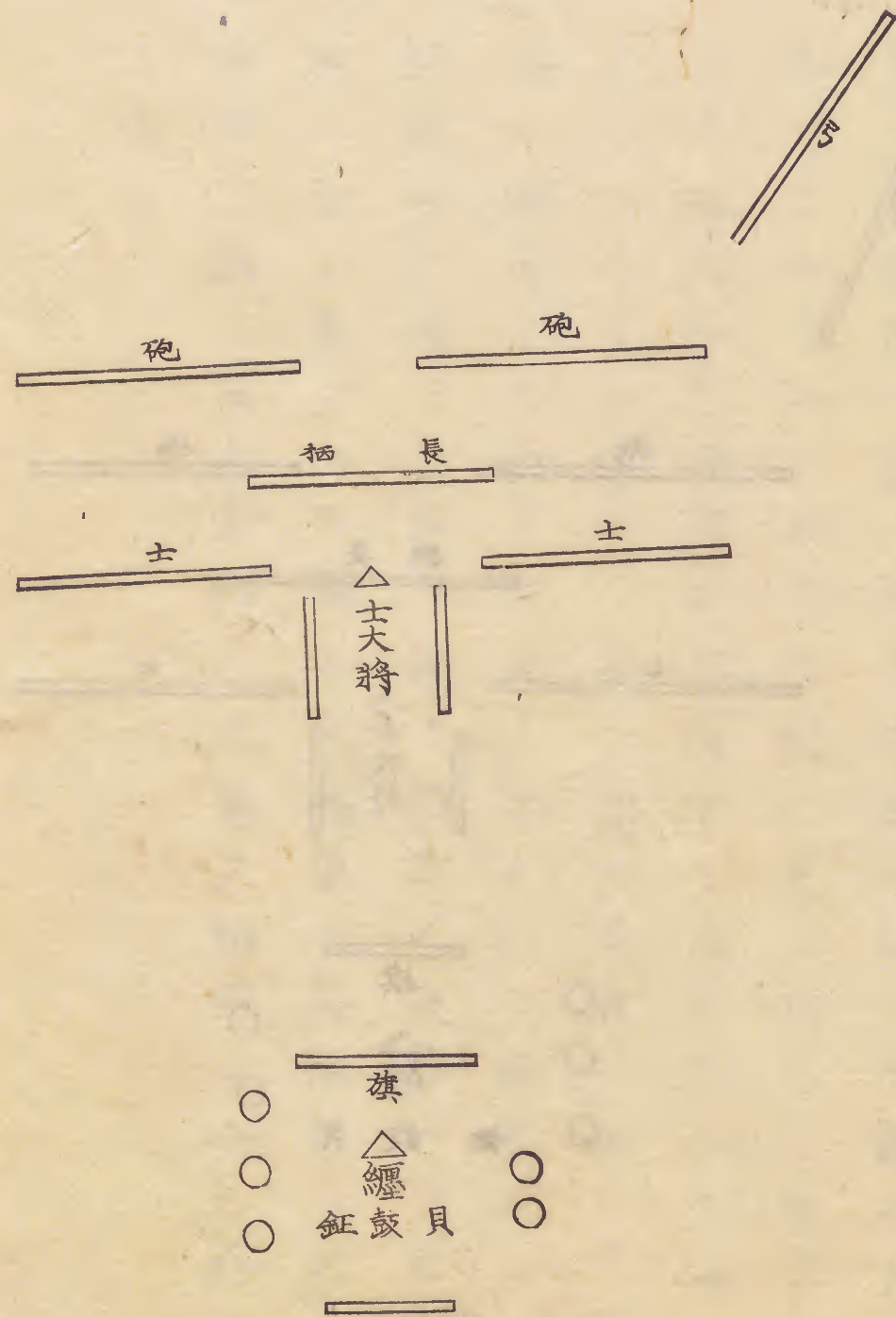




ヲ進メ左ノニヲ先トシ右ノ一ヲ右ノ跡トナシ  
 場ヲ積リテ旗ヲ建太鼓ヲ打トメ鉦ヲ無數ニ打  
 鳴ラセバ兩士大將始メ頭奉行烈シク下知シテ  
 追撃ヲ止メ五六間揚テ隊列ヲ正シ敵ニ向テ折  
 敷テ後途ヲ慎ム大砲ハ旗ヲ目當ニ揚來テ本坐  
 ニ備フ弓手左右ノ先へ進ミ斜メニ備へ折敷テ  
 終ヲ守ル

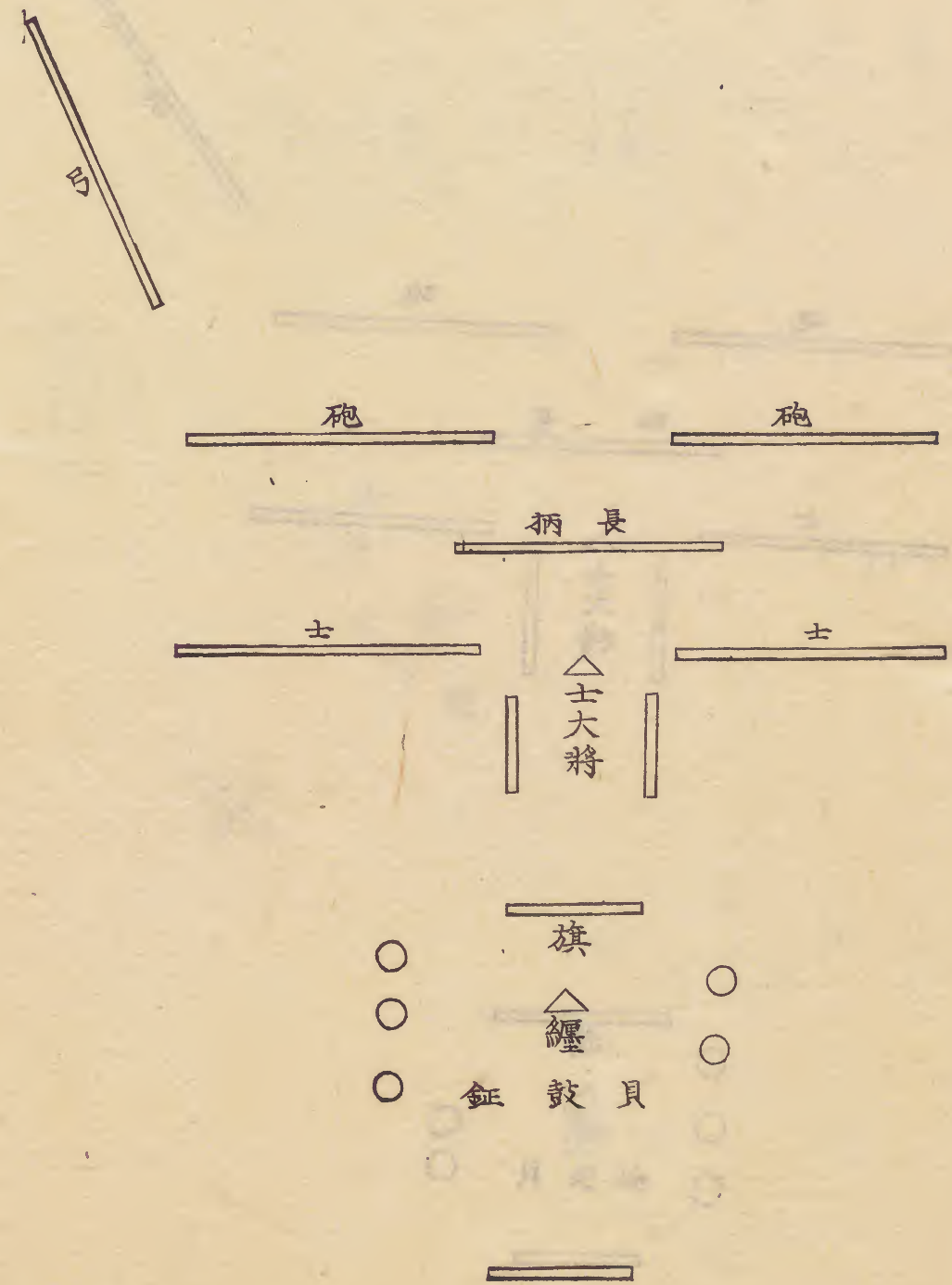




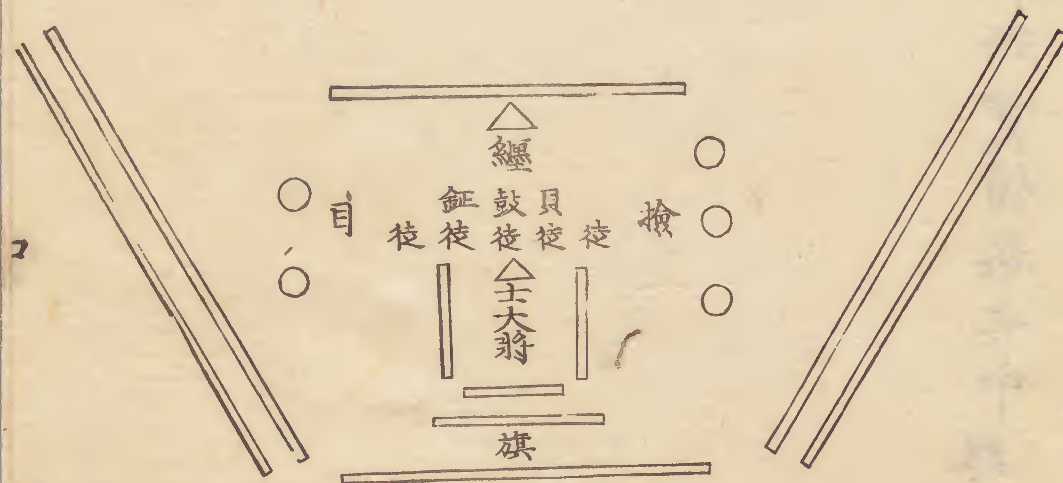




節ヨク兩陳一度ニ破ノ太鼓ノ拍子ヲ靜ニ貝ヲ  
 合セテ吹立ルト兩士大將一度ニ折立ノ采幣ヲ  
 カケ砲手ヨリ長柄士大將士ト次第正シク揚カ  
 クレバ弓手モ總跡ヲ押へ隊伍足並ヲ正シク揚  
 來リ胴筋ヨリ入テ前法ノ如クニハ横箕手一ハ  
 豎箕手ニ備へ貝鉦ヲ邊ノ折敷ノ采幣ニテ總軍  
 地ニ坐シ勞ヲ休ス兩士大將俱ニ其陳後ニ於テ  
 首牒ヲ調へ高名手柄ノ次第ヲ紀明シ全ク終リ  
 ヲ慎ム

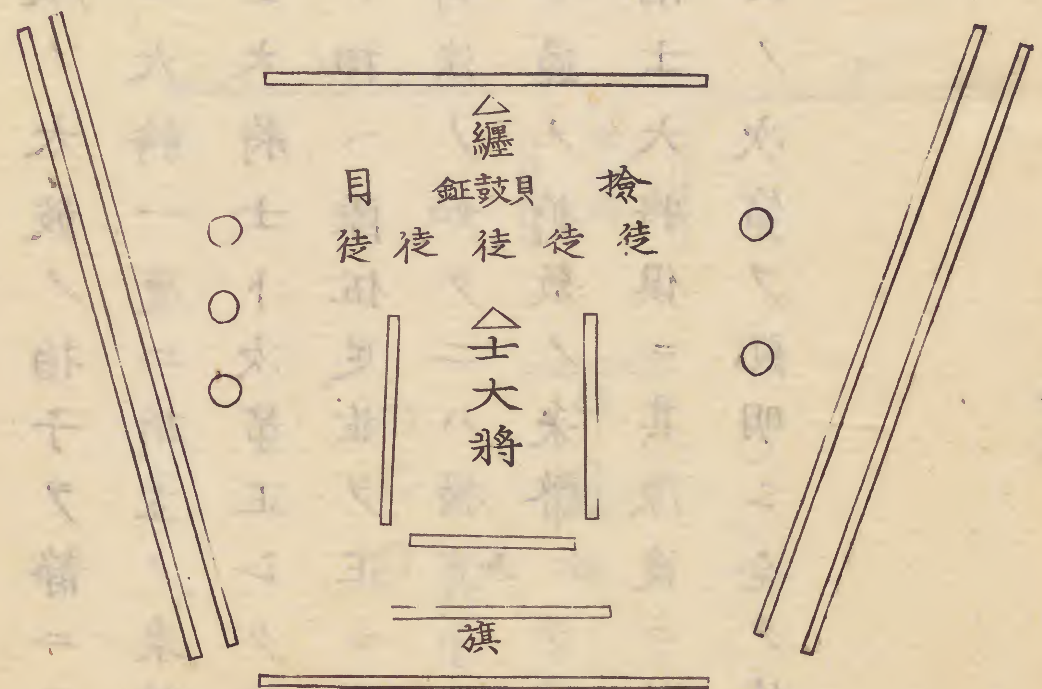






十一

又...  
 下...  
 中...  
 大...  
 士...  
 大...  
 一...  
 一...  
 一...





練兵實備卷之中終



中

十七



